

第3回 梳く（すく）

抑留から3年たった昭和23年ごろからは徐々に食糧事情が改善され、精神的な負担が少しだけ軽くなってきたことで、収容所での生活にも一段と工夫がみられるようになります。

今回紹介します櫛は、身だしなみだけでなく、シラミの駆除にも使われました。シラミは、一匹ずつ指でつぶしたり、日光に当てたり、また冬には屋外に衣類を出して凍らせるなどしたのですが、髪の毛についてのシラミを効率よく駆除するために手作りの櫛が役に立つことがあったようです。

抑留当初に比べて衛生環境にも改善が見られたものの、依然ノミやシラミ、南京虫（トコジラミ）に悩まされ、日々の生活を少しでも快適に過ごそうと工夫したのかもしれない。

○ 櫛①



飛行機の風防ガラスを使ったもの

○ 櫛②



アルミニウムの屑を溶かしてレンガで型を取って製作したもの